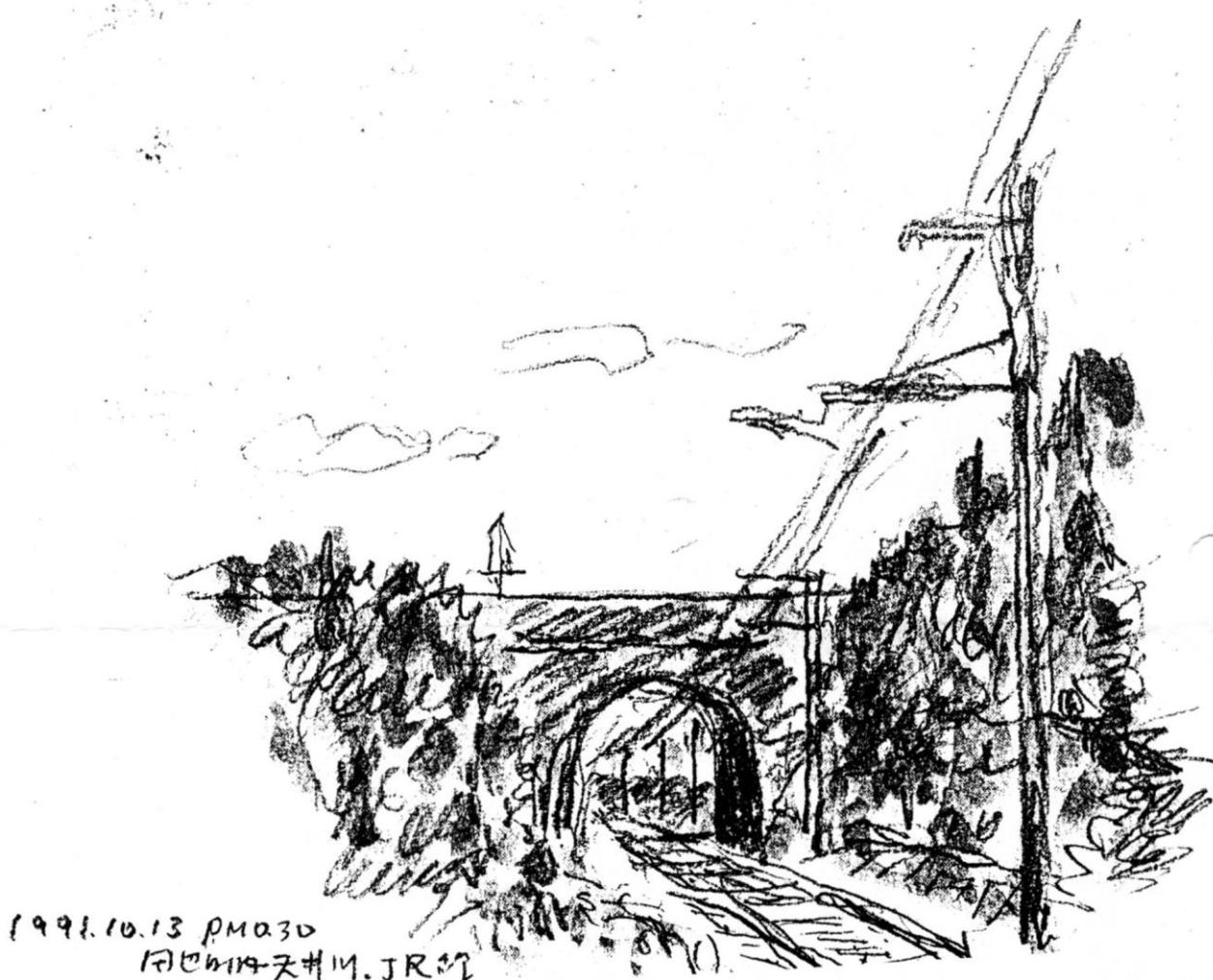


(1) 1993年5月20日

燎 原

第88号



農民運動散歩記(四)

品角一郎
(遺稿)

日農府連決議文

決議文

私たち福知山公会堂でもつた
労農市民人民演説会のあと、上述
のように全市的にビラを配布する
と同時に、近郊の農村で積極的に
座談会をもち、税闘争の成果を報
告した。それがまた新たな闘争を
起していったので、やむをえず府
委員会から、新たにオルグを二名
派遣してもらった。ところが、細
見幸基氏に更に迷惑をかけること

になるので、細見氏の世話で、細
見氏の近所の家の二階を借りること
になった。これはその家の好意
で家賃はただあつたが、実にぜ
いたくなことであったと今でも思
っている。

この「農民運動散歩記」は、
故品角一郎氏(一九一一年一九
八一年)が、その最晩年に死に至るまで書きづけられていたものである。

すぐれた画家であり、民主的な詩人でもあった品角氏は、一九四六年から約十年間農民運動に携わっていたことがある。日本農民組合京都府連合会の泉隆書記長のもとで、書記として京都府連の再建と発展のために活躍されたのである。この記録はその当時の思い出を書きづらえたものである。

品角氏がこの「散歩記」を書かれるようになったのは、一九七八年の夏に、当時私どもがやっていた京都府の農地改革史に関する研究会で、品角氏に敗戦直後の農民運動についての思い出を語って貰ったことがきっかけ

になっている(この研究会の成果は、京都府農地改革史編纂委員会編「京都府農地改革史」一九八〇年刊、にまとめられている)。本文にも書かれているよう

な事情から、日農京都府連に関する資料が焼失してしまったために、関係者から当時の農民運動の状況についても聞き取りを行うことになったのである。

この中では、品角氏が農民運動にかかわるようになつた事情や、丹後を中心とし府下全域に及ぶ農民運動の状況が、数多くのエピソードを交えながらビビッドに描かれている。

体験的農民運動史として、農業にかかわるようになつたのは、一九七八年の夏に、当時私どもがやっていた京都府の農地改革史に関する研究会で、品角氏に敗戦直後の農民運動についての思い出を語って貰ったことがきっかけ

(立命館大学教授 大蔵輝雄)
(九二・九・二〇稿—再録)

資料となりうるであろう。
地改革期(一九四五—五〇年)
の農民運動を知る上で、貴重な
手のとどかない村でやられて
いたのである。市内の実に零細な商
売人に「必要経費をこまかく書きあ
げよ」とか農民に対しては、「仮壇
以外は何でも差押えする」とか、あ
る村では「牛を差押えした」といっ
て農民を脅迫しているのである。

ところで、私たちの闘いは日増しに激しくなつたが、敵の攻撃も日々に巧妙になり、はげしくなってきたのも事実である。差押さえ、脅迫、強制行為等々が、私たち共に団体交渉権を要求すると共に、第三回日農京都府連大会の決議によってかかる不当課税を強権を以て果たさんとする反動内閣に對して即時退陣を要求するものである。

右決議する。

一九四八年三月四日

日本農民組合京都府連合会

② 中郡大宮町五十河日農支部から提出された資料

(3) 1993年5月20日

私はある日、日農京都府連大会の決議文をもって、福知山税務署長に面会し、差押え、脅迫行為を即時やめよと交渉したあと、決議文を手交したが、その時、舞鶴に駐屯しているアメリカ兵が銃をもつて、署長を護衛しておるのである。また、税務署前に結集していた大衆の前に連れ出した時にも、アメリカ兵が税務署長を守り、銃を大衆に向けていたのである。この日は河田委員長も大衆の先頭に立って抗議をつづけていたことを今まで記憶している。

私たちが、福知山で税闘争をやっている際、前面にでてきたのは右翼の大日本菊水党支部であり、つぎにアメリカ帝国主義者であった。そのアメリカ軍国帝国主義者が直接党を弾圧してきたのである。それは、先に述べた党の演説会の直後、舞鶴の私宅に帰った河田委員長に出頭を命令してきたのである。その理由は外資導入に反対し、芦田内閣打倒を演説したことにあたると、後日、河田委員長から聞いたのである。さらにアメリカ帝国主義者の弾圧と、右翼の菊水党が露骨な行動に出てきたのは、次に述べる闘争の直後であった。

芦田均首相歓迎大会粉碎闘争

私たちは演説会のあと、前にも述べたように、積極的にその成果をピラと座談会で、大衆のなかに拡大していった。そうしてその会場で重税反対・外資導入反対・売国芦田内閣打倒の決議を積極的にとったのである。そうして、その決議をみかさね、大量の決議を税務署及び政府に手交する予定をたてて闘った。ところがある日、内閣総理大臣芦田均が郷里の天田郡中六人部に帰ってくることと同時に、福知山公会堂において、内閣総理大臣芦田均の歓迎

会場での各自の行動任務もはっきり決まった。

その日がきた。さすが内閣総理大臣芦田均が故郷に帰ってくるというので、福知山駅前には歓迎の横断幕が張られ、町の雰囲気もい

つもとちがってうきうきしていると情報がはいつてきた。私たち

は直ちに会議をもち、これにいかに対処するかを討議した結果、歓迎市民大会を粉碎することと、これまでとてきた重税反対・外資導入反対、売国芦田内閣打倒の決議文を直接芦田均に朗読して手渡すことを決定したのである。

つぎに、私たちはこれを成功させために、国鉄労組をはじめ、税務労組・市民団体・青年団・農民団体等に共闘を申入れ、当日は多

数の大衆動員を依頼（廻ったの

である。それは歓迎市民大会を、われわれの市民大会にするためで

あった。準備は着々と隠密裡に進めた。私たちは、当日会場で配布す

た。私たちは、この労組も張切つてい

るビラと、垂幕にスローガンを書くのを、所定の位置についた。また

労組・市民団体も予定の場所に陣

て、この準備態勢は完了した。さらに

会場での各自の行動任務もはっきり決まった。

その日がきた。さすが内閣総理大臣芦田均が故郷に帰ってくると

いうので、福知山駅前には歓迎の横断幕が張られ、町の雰囲気もい

つもとちがってうきうきしてい

た。

私たちが駅前で、芦田均が列車からおりて出てくるのを待っていたのである。

駅前には、市町村長会の連中をはじめ、町の有力者たちが多数出迎えにきていた。私たちは赤旗で芦田均を迎えることにしていたのである。列車がつき芦田均が駅前に出てきた。その瞬間カクシもついた赤旗を一齊に振った。ところがこれには芦田均も市町村長会の連中も吃驚して、あわただしく自動車にのりこんでしまった。

これで第一幕は終った。

第二幕・公会堂歓迎市民大会

会場の舞台には金屏風がたてられ、花がおかれ、なかなか豪華な舞台装置である。開会のアイサツは市町村長会を代表して福知山市の市長が歓迎のアイサツを長々と喋舌った。

つづいて、「内閣総理大臣芦田均先生の御アイサツ」といって司会者の紹介がおわると、芦田均が舞台のテーブルに手をついて「私が芦田均です」と一言喋舌った瞬間、舞台のすぐ前にいた栗田同志が「議長」と大声で叫び、舞台上飛び上がり、決議文を読みあげた。同時に二階の正面に陣取っていた同志と労組の連中が、「議長」の一聲にあわせて、売国芦田均内閣打倒のスローガンの垂幕を中心

に、重税反対・外資導入絶対反対のスローガンを下ろした。また、赤旗が二階正面と左右から下ろされ、ビラが雪のようにまかれ

た。この行動は実にアッという間であった。同時に芦田均内閣打倒・外資導入絶対反対・重税反対とスローガンが唱和され、会場は大混乱にはいったため、芦田均は結局一言も講演できず、舞台の上で棒立ちしている有様であった。司会者がどんなに静止を叫んでも唱和にうち消されて收拾ができず、結局歓迎市民大会は混乱の裡に、アッケなく終ってしまったのである。

しかし、この混乱のなかで、決議文を読みあげた栗田同志が会場に潜入していた私服警官に逮捕されたのである。栗田同志が逮捕されるや、「栗田を奪還せよ」といつて、同志と大衆が立ちあがり、床を靴でならしながら福知山署に向かって抗議行動にうつった。

公安課は、「保護検束だ」といつていたが、「保護検束でありながら、なぜ、ブタ箱に入れたか」と抗議した末、栗田同志の身柄は直ちに釈放され、インターを唱いながら事務所に帰ってきたのである。

その晩、私たちは早速「なぜ歓迎大会を粉碎したか」、その理由を壁新聞に書き、駅前をはじめ、福知山市内七、八ヶ所に掲示したのである。

夕暮れからはじまつたこの闘争

の模様は、風のように市内に拡がり、あちらこちらで大きな話題になっていたために、壁新聞の前は大変な人垣ができた。だが、前にも述べた大日本菊水会も反共壁新聞を掲示し、反撃に出てきた。そ

うして私たちの同志が、掲示板の前からしばらく離れたスキに党的壁新聞は右翼の連中に破られたのである。私たちはそれにまげず挑発にのらず、壁新聞をまた書いて破られた場所に貼りだした。特によく破られたのは駅前の掲示板であった。私たちはそこで、七、八月そろって夜の十一時頃、駅前の壁新聞の場所へ出かけた。夜は更けていたのに壁新聞の前はまだ人垣があった。その大衆の中に私服が党的壁新聞の文章をノートしているのが目についた。私服は素知らぬ顔で駅前のポリボックスに入らなかった。私たちは、そのあとからすぐ、ボックスに入って、その私服に面会して抗議した結果、そのノートに筆記した文章のところをとりあげてしまい、「右翼の菊水会の連中が、党的壁新聞を破るのを言論の自由を妨害する行為だから取締れ」と要求し、その上、「市内七、八ヶ所に掲示している

党新聞を警察は責任をもつて

防衛せよ」と要求した。私服はこれを素直に承認したのである。抗議した効果のためか、壁新聞はその後からは破られず翌日のひるすぎまで残っていた。

私はこの闘争が終ってから数日たって、府委員会からの連絡で、関西地方委員会での税闘会議に出席した。会議には兵庫・大阪・和歌山をはじめ全関西から集まっていた。どの地方も活発な闘いがやられていて。私も京都の報告（福知山市を中心）をしたが、闘いの様相が大きく、はげしいことと、とくに芦田均歓迎市民大会の成果には一同驚いていた。

アメリカ駐留軍の弾圧

ところがその日おそらく福知山にもどって、敵の弾圧があつたことを聞いた。舞鶴に駐留しているアメリカ軍司令部から栗田同志・上牧同志・細見同志等が出頭を命じられていて、そのことであつた。細見幸基君の話では、「三人

等々において、党的組織は飛躍的に前進した。また新しい細胞もできた。特にうれしく思ったのは国鉄細胞の前進であった。この国鉄細胞の前進のおかげで、ソ連から帰還者闘争の時は、大変な闘争がやられたのである。そのことにについては後で述べることにする。

京都市内の反税闘争

福知山を中心とする反税闘争は以上のように大きな闘争であったが、京都市内でも、生活を守る会・生活擁護同盟・納税民主化同

芦田内閣打倒を喋舌るな」と高庄的命令した。それに対しても意見を話しかけたら「問答無用」といつて拳銃を握りよった」と話した。

税闘争の真の敵はこれで明確になつた。だが党的税闘争は其後も力強く展開され、大きな成果をあげることができた。大衆は「党があんなにエラそうに芦田均に決議文を渡すとかいつて、本当に実行した。エライ奴だ」という噂がひろがり、党に対する信頼は大きなものであった。

ところで、この税闘争をつうじて福知山市内は無論のこと、上豊富・中六人部・下六人部・綾部等々において、党的組織は飛躍的に前進した。また新しい細胞もできた。特にうれしく思ったのは国鉄細胞の前進であった。この国鉄細胞の前進のおかげで、ソ連から帰還者闘争の時は、大変な闘争がやられたのである。そのことにについては後で述べることにする。

盟等が中心で各区の税務署に対し、連日のようにデモが行なわれたり、交渉をやったりして大きな成果をあげていた。また福知山において芦田総理大臣に対する直接決議文を朗読して抗議したのと同じように、京都市内においても芦田総理が京都府庁にきた際、税闘争の活動家が抗議文を手渡したり、直接抗議のための面会を要求したりして芦田総理大臣の京都入りは予定通りの行動ができない程市民の反撃をくったのである。

芦田連立内閣の成立と崩壊・ 日農京都府連

この芦田内閣は一九四八年二月一〇日片山内閣の総辞職のあとをうけて、民主党総裁であった芦田均が首班、社会党の西尾末廣が副総理で、国協党的連中を入れて連立内閣を三月一〇日組閣したのである。だがこの芦田内閣も、森コンツエルンの経営していた昭和電工の疑惑事件で、六月関係者の検挙がはじまり、昭電社長日野原の収容、つづいて大蔵省の福田主計・大野伴睦、興銀副総裁一宮善基・前蔵相の安本、栗栖、さらに副総理の西尾末廣と検挙は拡大し、芦田均

自身にも追及の手がのび、十月七日芦田内閣は、崩壊し、二月七日芦田均は逮捕されて、小菅刑務所におくられたのである。

マッカーサーはこの時、韓国から李承晩をよび、李承晩政権を支持することを約し、朝鮮戦争の陰謀を企らみ、日本においては第二次吉田内閣を組閣させ、日本と韓国のファシズム化を企図したのである。だが中国においては毛沢東の指導による中国革命は決定的な勝利をおさめていたのである。

この一九四八年（昭二三）は、片山内閣の総辞職につづいて、芦田内閣の成立と崩壊、つづいて第二次吉田反動内閣の成立といつて、実に慌ただしい政局の動きのなかで、日本の農業は恐慌の波をうけ、農村には不況の嵐が吹きはじめたのである。生産価格を割っての供出米の強制買上げ、輸入食糧の増大、経済九原則の実施による農業金融の圧迫、それに重税のとりたてで農民の生活は極度に窮屈し、借金は増え、農地改革による農地譲渡も停頓状態にはいる。青田売りもあちこちでおきていたのである。だがアメリカ軍のGHQは農地改革は一応終ったといい、農民への農地の完全解放

を中断させ、地主勢復活に手をかしたのである。農民はこれに反対し、山林原野の土地解放（第三次農地改革）を要求して闘つてます。

本農民組合は、社会党系の幹部（稻村・野溝・岡田）の分裂行動によつて組織は危機に直面したのである。だが日農京都府連は統一のため闘いつづけていた。一方社会党系の森英吉、永井健等は、中央主体性派のもとで日農の分裂に動いていたが、京都日農府連は分裂しなかつたと同時に府下においては日農支部組織は前進をみたのである。

（以下次号）

編集部より

大変つめこんだ誌面になり恐縮です。

「領収書にかえて」はこの号では割愛させてもらいます。随分沢山の皆さんから送金いただいたおりお礼申上げます。

会や本誌については、編集部担当の奥田修三、（宇治市広野町寺山一七一一五七）、湯浅貞夫（京都府船井郡日吉町保野田）の両名のいずれかにご連絡下さい。

小柳津恒（代理）さんより便りをいただきました。紹介させてもらいます。（編集部）。



いつも京都の民主運動史を語る会のご連絡をいただきありがとうございます。昨秋より父は病気加療のため、民医連中央病院に入院しており、洛南寮は長期入院と云う理由で退寮になりました。六月中には京都原谷のこぶしの里へ入所の予定となつたが、京都日農府連は分割しなかつたと同時に府下においては日農支部組織は前進をみたのであります。

父は戦中、戦後の経験を語り

記録することが生きがいであり、会報や会合を楽しみにしておりました。ただ今は文字を読み書きする意欲が減退しておりますが、体力が回復すれば又、文章を書きたがるだろうと思つております。今後ともよろしくお願い申上げます。まずは住所変更のお知らせまで。

生涯を労働者として (上)

南区の田中豊藏さんの活動

語り手 田 中 豊 藏

聞き手 湯 浅 貞 夫

はしがき

三)八月九日で今年で九十才です。

私は京都市中京区猪熊通姉小路で米屋をやっていた田中万次郎の長男として生れました。

一九九三年三月十日、戦前からの労働運動家、京都市南区東九条西山町在住の田中豊藏さん（九〇才）に、「京都の民主運動史を語る会」の編集部湯浅貞夫が聞きがきをしました。

田中氏は戦前の海員組合・評議会合同労組・無産青年同盟・日本無産党、戦後は自由労組・日本共産党員として活動してきました。

長い闘争歴は色々な教訓をふくんでいますのでここに全文集録いたしました。

一、生いたち

湯浅 田中さんは今年おいくつですか。

田中 生れは明治三六年(一九〇九年)三月二十九日です。田中豊藏の娘で「ぎさ」といいました。村井万次郎に嫁ぎましたが、姫内家と村井家は隠居・主家の関係で従兄弟夫婦でした。この姫内家は米屋をやっていましたが、京都の水谷長三郎に嫁入りしました。

湯浅 田中さんは今年おいくつですか。

田中 治三七・

もっていました。兄は亡くなりましたがその息子は今、草津市の社会教育委員長などやっています。村井の方は京都の梅蔭薰という弁護士ともと入れて、明治大学の学資など出し事件の処理などたのんでいました。

湯浅 それでは万次郎さんはな

ぜ田中ですか。

田中 それは村井家の長男でしたが、姫内のぎさと結婚しましたが村井の親と意見が合わず、京都の猪熊の米屋田中家に子供がないためそこの養子という形となって入りました。村井の方を廃嫡にしたわけですね。

そして万次郎は江州米を取扱う米屋として当時は裕福な生活をやつしていました。私が生れたときは親からも立派な乳母車を祝つてもらつたりしたそうです。

湯浅 それで田中さんの御兄弟は。

田中 長男が私豊藏、次男が嘉

一、これは中支で戦死しました。

三男は呉海軍工廠で体をいためました。四男は鈴鹿海軍航空隊に入

隊し戦傷死、妹ははなといい、これは大津の田中嘉一という米屋へ嫁入りしました。

ところが日露戦争 治三七・

八年戦後のあと日本は急に不景気に見舞われてあのあたりは京都の染工場が多く、工場がつぶれ米代の貸倒にありました。金の回収がつかず江州に金がおくれず商売がつぶれるより仕方がありません。それで父は猪熊の家を全部たたき売って二条駅の石炭仲士の仕事をやりました。

そうして家を東九条、当時は紀伊郡東九条村に移転したのです。

中京区の人々は「えらいおそろしい所へ行くんやな鬼が住む所や」などといっていましたがそれでも借金にはかえられません。そして、江州の馬喰屋さんにたのんで馬を入れ、馬車屋をやつたわけです。

それで私は東九条ではもう古い顔です。今でも国鉄(JR)梅小路駅の荷物をあつかう運搬業の人

は滋賀県出身の人が多いのです。湯浅 その東九条での生活は。

田中 東九条への引越は私の一才の時でした。私は東九条の陶化

小学校の尋常科に入学、卒業すると東山区本町五丁目の醤油屋に奉

公に行きました。当時の生活は苦しいものでした。それで私は新聞を見てアメリカ移民に行こうと思いました。しかし、これも程なく禁止になりましたので、私は船員

になつて日本を脱出しようと考へたのです。

二、船員になつて

田中 私が十八才の時です。神戸にある勝田銀次郎の汽船会社に入社しました。勝田汽船の見習いボーイです。丁度因島で新しい船が出来たからこいというわけで、広島まで迎えに行きました。私はアメリカ行きをねらっていましたが、その船は南方航路です。ジャワ・スマトラ・シンガポール・ボンベイという様な調子です。勝田汽船の本社は神戸にあり十五、六隻の船をもつていました。社長は神戸海運界の重鎮で後に神戸市長になりました。

当時一番印象にのこっている事柄は、

北はシベリヤ
南はジャバよ
流れ流れて……

と歌われたように日本のまことに女性は外国人に買われて行きました。商社の甘言にのせられて日本資本主義の尖兵です。その金で國元の親は田圃を買い生活を立てことになりましたが、その女性達は外国人のそばにはべられ、

商の秘密をさぐるのです。それを日本領事館を通じて三井や三菱に連絡する、そして日本の商社は大もうけをするのです。

湯浅 いわゆる唐ゆきさんですね。当時の船員の待遇は。

田中 私等の下級の船員で見習いは十五円、食事は会社もちです。水夫長やコール・マスティンは二十五円でした。

湯浅 家に仕送りなさいましたか。

田中 いや出来ません。金を使ふようにしてあるんです。水夫長が金貸しをして二割の利息を取ります。船員は色々買物をしますので残らない。すい取られる様になっています。借金で仲々船を降りられないようになっています。

湯浅 八時間労働ですか。

田中 政府の労働組合会議の日本代表榎本卯平がアメリカに渡った時代です。時間短縮をやかましくいました。

私が最初に乗った船は勝田汽船の平明丸という四千七百トンの中型釜ボートです。つまり貨物船、南方から綿花を積んで日本に運びました。乗組員は甲板部十五、六人。機関部二十名、それにキャブテン・サブ・ファーストエンジニア

ヤ・サワグー・コーン・ステン・コック等々一隻に約四、五十名の船員がいました。現地の港では各人の労働者が働いていました。シンガポールではマライ人・中国人、ボンベイではインド人と、現地の人々が積荷のあげ降しをやりました。シンガポールに船がつくと「ホッテンカーホッテンカ」といって港で銀貨や銅貨を水中に投げ入れてそれを上手に拾つて来ています。

日本人を歓迎します。日本人とアメリカ人は金使いが荒いのは一番。だから「ジャパニーズ、メリケン、ナイス、ベリーナイス」などといっていました。

湯浅 言葉の方はどうでしたか。田中 現地の労働者は英語がうまいんです。外国人に接している

から自然におぼえるんですね。私は尋常科やからわからん。ナショナルリーダの辞典など読んで勉強しました。

「ハロー」「オー」「ジャパンーズ・コンパニオン・ヨーロッパライン」「フ・イズ・クリュード・セーラー・オン・ユウ・ジャパンーズ」「オー」「イエス」

という様なもんですね。それから「掃除道具を持ってここへ」とか、「オイルを渡してくれ」

とか、随分とよくはたらいたものですね。

湯浅 海員組合に入られたんですか。

田中 大正八年か友愛会から日本海員組合になりましたが、福本と根津という宣伝部員が来ました。私はまだ若いから役員はしませんでしたが、よく待遇改善を訴えました。「君は若いのになまいなことを言うなあ」といわれました。

湯浅 海員組合の田中松次郎は御存じですか。

田中 知っています。共産党でモスコーにいった人でしょう。

神戸では木村錠吉や青柳善一郎などが指導者で労働運動がもり上がっていました。

川崎汽船のストライキ闘争は極端なものでした。国内でストライキをやると警察が一ぺんに弾圧します。海外だと手がとどきません。

海員組合は無線電信をもつていますからオペレーターがいて無線で連絡をとるのです。外国の労働者も協力してくれました。資本家は往生していました。

アメリカ・ミシシッピーの二オーリンズでも鬭争が行なわれました。アメリカには海員組合の

燎原

IWWという組合がありまして、組合長は病気になりモスコーで病氣療養にいくというようなものでした。

湯浅 田中さんはいつまで海員組合員でしたか。

田中 二十一才になり徴兵検査までです。伏見の廿二聯隊に入ります。どこの港へいっても日本の領事館があつて二十一才の兵役をまつて内地に送り返され船をおろすんです。

湯浅 海軍ではなかつたんですか。

田中 船は乗りあきたから今度は野砲隊です。「家は何をしているか」というので「馬車屋です」というと「野砲隊に入れ」というわけです。私は馬がすきでしたから、三ヶ月で聯隊で十人しかならないとうい一等兵に進級しました。しかし大正八十九年は軍縮の時代で兵隊があつたから親も「外国の方へ船にのついても得にならないから」というので京都の梅小路駅の仕事をする様になりました。

三、梅小路の労働者として

湯浅 組合は梅同会ですか。高沢仁三吉の。

田中 いや私等は左翼です。一般労働の合同労働組合でした。合同労組の組合長は染労に関係しておられた齊藤英三さんです。齊藤さんは捺染の彫刻士をやっておられました。白田英雄や南善藏や増山などと一緒にです。

湯浅 待遇は、船員と比べるとおれません。

田中 私等は二五円です。大学出の人は月給六〇円でした。船員の方がよかったです。

そして大正十四年の奥村電気の争議は大闘争でした。元は疎水のケイリュウ橋の所にあった工場で

吉・瀬川等、三百・四百人ばかり

が七条通を西千本七条の汽車の踏み切りを越え、組合旗をなびかせ

て大声をたて西へ西へと進みました。西大路で南へ下り奥村の本工場に向かい「どこのどいつが会社

とさわぎました。

会社がわは伏見署の署長が出

て、これで大事に至れば大変と会

合いかつきました。

工場では一ヶ月間のストライ

キ、工場閉鎖で労働者はもう一つ

はおわりました。

大衆の団結の力は偉大なものだ

んようになつて来たんでしような。

と思いました。

それから、奥村電気は、日本電

池の会社にかわりま

し

かかります。それで組合は全京都から応援を出します。七条高倉下ルの貧民街から四百人程の労働者が奥村電気に向かいました。水平社の同人の人々です。会社は暴力

団二百人位を正門前にすえて、バリケードを築き労働組合の交渉をやらせまいとしました。こちらの指揮者は奥村甚之助・辻井民之助・東七条の菱田貞次・西林治三

・サラリーマン組合は田村敬男

・陶磁器は坂本時三・加藤護

・鎌田栄吉・金井健吉・市

会議員になった生水徳松・川

口正也

波には勝てずに大資本に食われた

んでしょうな。

当時の評議会の指導者を言うて

おきますと、私の知っているところでは

ろでは

- 染労は増山則文さん・南善藏・白田英雄・安田郡・角田丈太郎・山村・瀬野

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

湯浅 組合は梅同会ですか。高沢仁三吉の。

た。駒井の嫁さんが「働いていても食えへんのに、天皇が死んだからと言ふて逮捕されたら家の者が食えんようになる。おやじを返せ!!」と七条署に抗議しました。二十人程の女の人が警察の中に入つてワイワイさわぐ京都市内からは多くの労働者が応援にきた。そして警察をとり囲んで電車が止まつてしましました。署長はビックリして本部にかけあい、とうとう駒井は釈放となりました。七条内浜にあつた水平社はものすごい動員をかけたんです。大衆の威力というものは大きなもんです。

七条署には特高の小寺卯一課長がいました。これはあとで署長になります。それから陰惨な坂根甚左衛門という巡査部長がいました。これがえげつない干渉と弾圧をやりました。

京都染工の争議のときもチヨツカイをかけてきました。私も応援にいきましたが三〇日間逮捕されました。七条署は、「二四時間以上は拘留できないのです。」桙穀邸の廣場をうろついていた、五条をうろついていた「浮浪人」として逮捕し拘留をひきのばすのです。争議がすむまでやらされました。

の末の妹である。年令が離れていたので多年の養女になった。だから戸籍上、山中登氏は、山宣とは叔父・甥の関係になっている。

山中登さんの父平治（一八八九、明治二二年生、一九七五・昭和五〇年八五才で死去）は、宇治の中家に養子に来た人であるが、同志社専門学校に入学した。同校に

戦後最初の共産党宇治市議 山中登氏に聞く

春先の三月八日、夫人のクルマで送迎していただきて、宇治市白川の山中さん宅で、二時間あまり、戦中、戦後の活動について話を聞く機会を得た。

山中登氏は現在七三才、山本宣治（山宣）の従兄弟にあたる。山中さんのお母さん「せい」（山中平

の末の妹である。年令が離れていたので多年の養女になった。だから戸籍上、山中登氏は、山宣とは叔父・甥の関係になっている。

年三月五日山宣が暗殺された時、平治は東京へ飛び、遺骨を宇治に持ち帰った。この平治氏の戦前そして戦後の宇治における諸活動（初代共産党山城地区委員長、公選農地委員他）については、十年程前に、山中登さん自身が「日本共産党創立六十周年、統・礎をきずいた人びと、4『山中平治』」を書

編入してきた山本宣治とは生涯の友達となり、「花やしき」に出入するようになった。平治は同校卒業後大阪商船に入社し、外国航路の事務長として世界各国を廻った。せいさんと結婚ののち、昭和の初めに平治は宇治に在住し、「花やしき」の支配人を引受け、山宣の活動を支えた。一九一九（昭和四）

戦時下「軍馬」を扱う獣医科附属畜生病院は重要であった。ところで獣医科・病院の担当丁教授は獣医大隊大阪兵器廠より送付される医薬品を私宅に持込むなどの不正を行なったことを、薬品管理を受持っていた山中さんは見のがさず、その不正行為を摘発した。その為丁教授は免官され、東北地方

深草の野砲兵連隊に入隊したが、病気（ジフテリア入院）で、同年九月召集解除になった。戦争末期の昭和十九年六月、高農附属家畜病院に嘱託教員として勤務することになった。敗戦間際の一〇年六月「任文部教官（助教授）鳥取農林専門学校勤務」の辞令をもらった。

山中さんは地元の菟道とね小学校から京都府立農林学校を経て、戦時下の一九四二(昭和一七)年九月、繰上げで、鳥取高等農林学校（現鳥取大学農学部）獣医科を卒業し

中 なかつたです。私は梅小路の労働者です。染工場へ荷物を運び込みますから、労働者の争議は大抵応援にいきました。

功績をかわれたのか ほ高廃止後
大阪の田村駒・貴族院議員が社長
ですが、その労務課長にやとわれ
ていきました。そら非道いもんで
した。
(以下次号)

いておられる（『京都民報』一九八二・七・二十五号）。

燎原

の農学校の教師に追放された。おそらく少年期につくられた正義感が不正を容認しえなかつたと思われる。今回山中さんから聞いたエピソードの一つである。

* * *

敗戦後も引き続いて、当然山中さんは鳥取農林専門の助教授（文部教官）として、同校に勤務した。山中さんは敗戦翌年の昭和二年一月に、京都で父平治氏とともに共産党に入党した。教員としての仕事は当然であるが、戦後第一回の鳥取市会議員選挙に立候補した。同県の米原いたるほかの人々にすすめられたからである。

当時は国立学校の教員であっても、現職のまま立候補することができた。結果は一一八票の得票で落選した。落選者では中位の得票だったと思うと話していた。

戦後の学制改革で大学、高校、高等専門校などは一体化して新制大学に改編されるが、一九四七—五一年の間に統合改編が進行した。鳥取農専の場合は鳥取大学農学部になるわけだが、一九五〇（昭和二五）年の朝鮮戦争の勃発、警察予備隊の創設とともに、G H Qは共産党中央委員追放、赤旗停止などの弾圧を加えた。政府

（第三次吉田内閣）もまたレッド・ページ方針を閣議決定し、公務員・学校・言論界・企業などあらゆる分野でレッド・ページを強行した。大学の分野ではG H Qの担当イールズが直接大学に圧力をかけた。五〇年五月に東北大大学や北海道大学では学生が反対運動を展開したが、多くの大学・高専でレッド・ページが強行された。

山中さんの場合、先述のように旧制鳥取農林専門学校の助教授であつたが、新制大学（鳥取大学農学部）に移行させないという形式をとった。山中さんのことばによると「旧制学校の予算がつかないので、給料が出ない。辞職願を出してもらつたら、他のポストを紹介しよう」ということであつたが、山中さんは自分から辞表を出すことを拒否したので、分限免職になつた。この昭和二五年度末で旧制は消滅する、そして新制大学に移行させないという形式のレッド・ページであった。

* * *

こうして山中さんは昭和二六年春宇治に帰り、体調の回復を待つて、昭和二八年四月に獣医として山口家畜病院を開業した。斯界で山口家畜病院を開業した。斯界で

（第三次吉田内閣）もまたレッド・ページ方針を閣議決定し、公務員・学校・言論界・企業などあらゆる分野でレッド・ページを強行した。大学の分野ではG H Qの担当イールズが直接大学に圧力をかけた。五〇年五月に東北大大学や北海道大学では学生が反対運動を展開したが、多くの大学・高専でレッド・ページが強行された。

山中さんの場合、先述のように旧制鳥取農林専門学校の助教授であつたが、新制大学（鳥取大学農学部）に移行させないという形式をとった。山中さんのことばによると「旧制学校の予算がつかないので、給料が出ない。辞職願を出してもらつたら、他のポストを紹介しよう」ということであつたが、山中さんは自分から辞表を出すことを拒否したので、分限免職になつた。この昭和二五年度末で旧制は消滅する、そして新制大学に移行させないという形式のレッド・ページであった。

* * *

こうして山中さんは昭和二六年春宇治に帰り、体調の回復を待つて、昭和二八年四月に獣医として山口家畜病院を開業した。斯界で

策協議会副会長をつとめた。そして父平治氏のすすめもあって、一九五五（昭和三〇）年宇治市議選に立候補した。これは第二回宇治市議選でこの回から宇治市を一区とする大選挙区制となつた。四〇四票で同点クジ敗けであつたが、翌五六（昭和三一）年五月、繰上当選になった。共産党は宇治ではじめて議席を得た。登氏三五才であった。

以後七期二五年の山中さんの議会内外での活動については、吉村康氏のすぐれた文章がある（吉村康「われら共産党員」シリーズ（1）『宇治市会議員山中登さん』、『京都民報』一九八二・一・一号）。

そこから一、二の点を紹介したい。

① 昭和三一年山中さんは初議会で固定資産税増額案に対しても、大企業（日本レーヨン、現在のユニチカ）の工場施設固定資産評価

が特に低いことを問題にし、市政研七人（共・社・無の会派）や地区労などと共に増税反対運動を展開し、その大増税案を撤回させた。

② 工場誘致条例による固定資産税還付金の制度をやめさせる闘い。誘致条例自体の廃止と共に日本レーヨンとの間に公害防止協定を結び、工場側に施設改善をはからせたことなどが紹介されている。

昭和三四年の市議会選で山中さんは再選されたが、市会ではなお一人で奮闘せねばならなかつた。

昭和三八年には川口佑一議員と二人になり、一九七〇年昭和四五年の再度繰上当選で山中・川口・佐藤京子の三議員となつた。その後、

五五（昭和四五）年統一地方選で七人当選、計一二、九六九票、得票率二二・一%であった。こうした共産党議員の拡大とあせて革新市政が実現し、新庄・田川・渡辺・島田市政へと発展した。のち、社・公・民なればいの保守市政の再現を許した。若干の議員交替もあるが、九三年現在市議定数三三名中共産党は七名を数える政治勢力をつくり出している。山中さんは孤軍奮闘の草分けとなり、山中さんは第一線から現れておられるが、山宣会のこととをはじめ、宇治民主陣営の長老として、各方面の活動に積極的に参画しておられる。一九五六（昭和三一）年、市会一期の時結婚された夫人愛子さんもまた、宇治の民主婦人運動に永年参加され現在に至っている。